

第3回意見交換会 記録

1. 日時：令和元年 11 月 9 日 10 時 00 分～11 時 20 分
2. 場所：相生山緑地
3. 団体名：ラブリーアース Japan、相生山の四季を歩く会、いっせい行動関連団体（「健康と環境を守れ！愛知の住民いっせい行動」実行委員会、道路公害反対愛知県民会議）
4. 市出席者：緑政土木局企画経理課 岩本主幹（企画）、上杉主査（企画）
道路維持課 水谷主査（安全対策）
道路建設課 山中課長、可児主査（事業調整）
緑地事業課 岩本課長、中村緑地計画係長
5. 参加者：7 名
6. 当日の次第
 - (1) 開始のあいさつ
 - (2) 現地説明、質疑等
 - (3) 終了のあいさつ
7. 主な質疑、意見等（○参加者、●名古屋市）
（道路について）
 - 計画当時より現在は、自然の比重が重いのではないか。
 - 道路の幅員は？
 - 歩道 3.5m＋車道 7.5m の 11m に構造物等で 1m が合計されて、幅員は 12m。
 - 幅員が 14m ある区間はどこか？
 - シェルター区間。車道と歩道の幅員は同じだが、シェルターの構造物があるため、道路幅員は 14m。
 - シェルターとそうではない区域の境界線はどのように決めたのか？
 - 路面の高さと相生山の地盤の高さから、車両が通れるトンネルの高さを確保できるところが、シェルター構造の境界となった。構造令で、高さ 4.5m、余裕高で 4.7m。
 - 分断しないようにと説明されたが、シェルターでも横断できない動物がいるのではないか？
 - 動物の移動については、専門家の方とも相談し、道路予定区域全区間で動物を横断させることは難しいため、アニマルパスなどを造ったが、必ずそこを動物が通るとは限らない。環境への影響をゼロにはできないが、出来る限り影響を少なくするように検討していた。
 - シェルター上部を植栽した目的は？
 - 鳥類などから見た樹冠の連続性の確保とヒメボタルなども分断されないように配慮した。シェルター上部の植栽については、工事当時に発生した現場の残土をシェルターの上に盛り、工事区域の樹木を移植したり、現場のドングリから発芽させた苗木を植えた。
 - シェルターの上部を観察すると、カラスザンショウのような相生山緑地の植生にない樹木がある。早く自然を回復させたいために、他の土地から樹木を持ち込ん

でないか？

- シェルター上部のうち約4分の1は未完成で、土で覆うことも完成していないが、自然に樹木等が育った区域がある。他から樹木を持ち込んではいない。
- シェルターの壁から水が浸みだして舗装上を流れている形跡があるが、雨水等の水の処理はどうなっているのか？
- 道路の勾配で排水を処理
- 道路のメンテナンスにかかる費用と何もしない場合の費用のシミュレーションは行っているのか？
- 道路の維持費は、やり方次第で変わるため、どれぐらいかかるかを正確に計算することは難しい。平成15年当時は、維持費がかかっても、道路を造ることによる価値はあるとされていた。この価値に自然の観点が含まれていない。
- 計画時の1日当たりの通行量と騒音の想定は？
- 計画時の通行量は1万台/日、騒音については、明確に想定していない。但し、動物への配慮として、手すりにパネルを設置し、道路より外に光や音が漏れないように配慮した。照明灯も実験のために設置し、光が外に漏れないようルーバーの形式などを検討していた。
- 1万台/日の通行量だと、昼間で65デシベル、夜間で60デシベルぐらいになるのではないか？
- 計画当時は、片側1車線では環境基準を超えないのではないかと想定していた。
- 橋梁は何メートルの予定だったか？
- 約70m
- 擁壁のアンカーを打ち込んでいる道路の隣接地は市有地か？
- 名古屋市の土地
(その他)
- オアシスの森区域20haは、全て借地か？
- 20haのうち約8haが借地。